

図 34 性器ヘルペスウイルス感染症(再発) 徳島

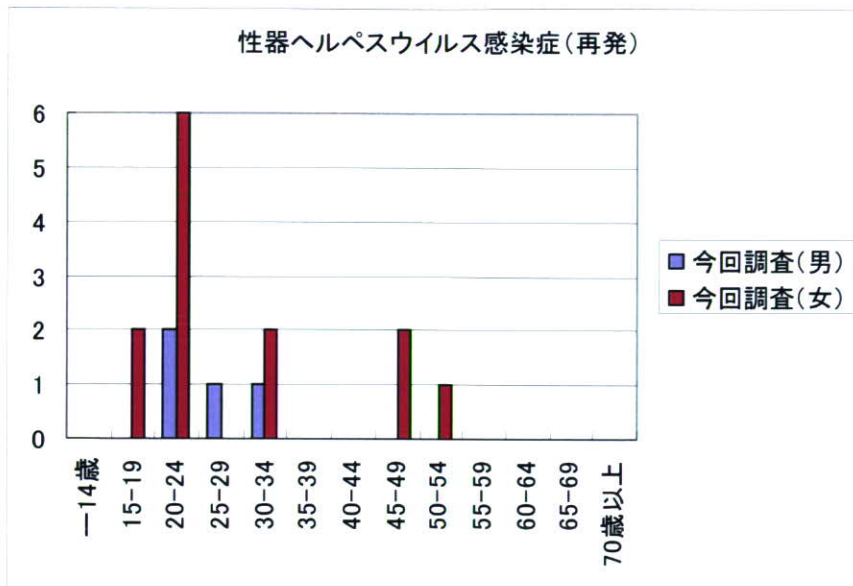


図 35 尖圭コンジローマ 茨城

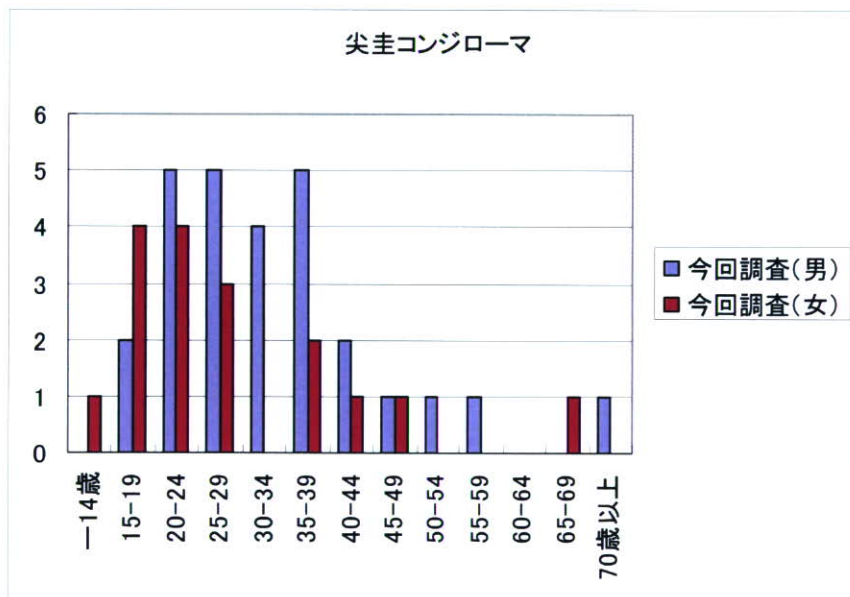


図 36 尖圭コンジローマ 岩手

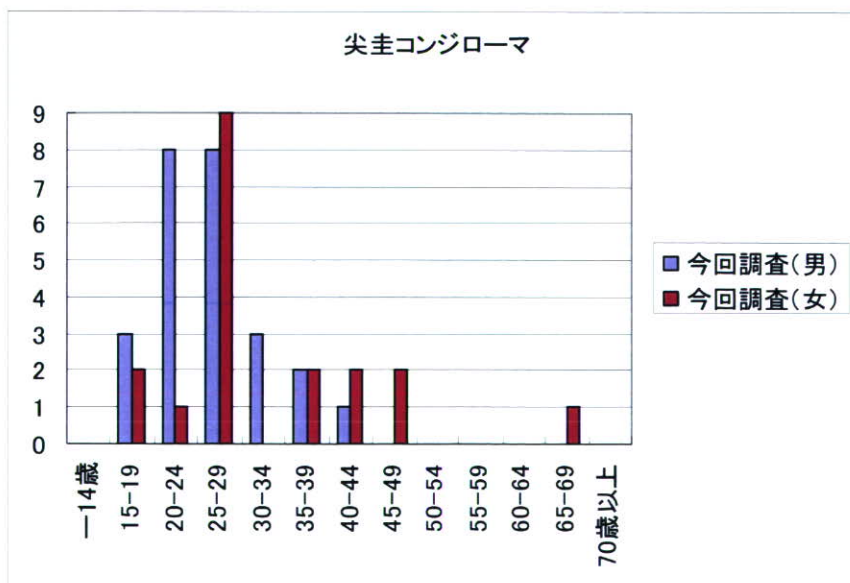


図 37 尖圭コンジローマ 千葉

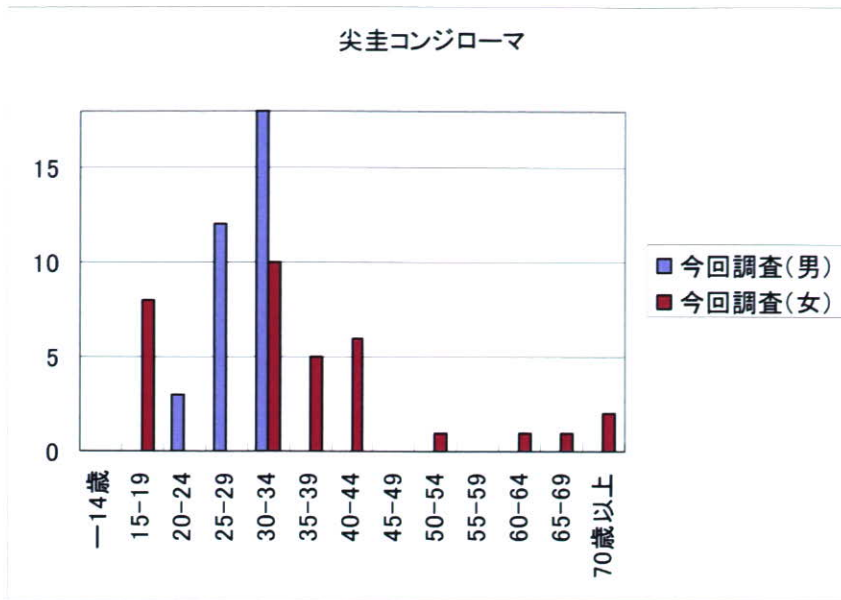


図 38 尖圭コンジローマ 徳島

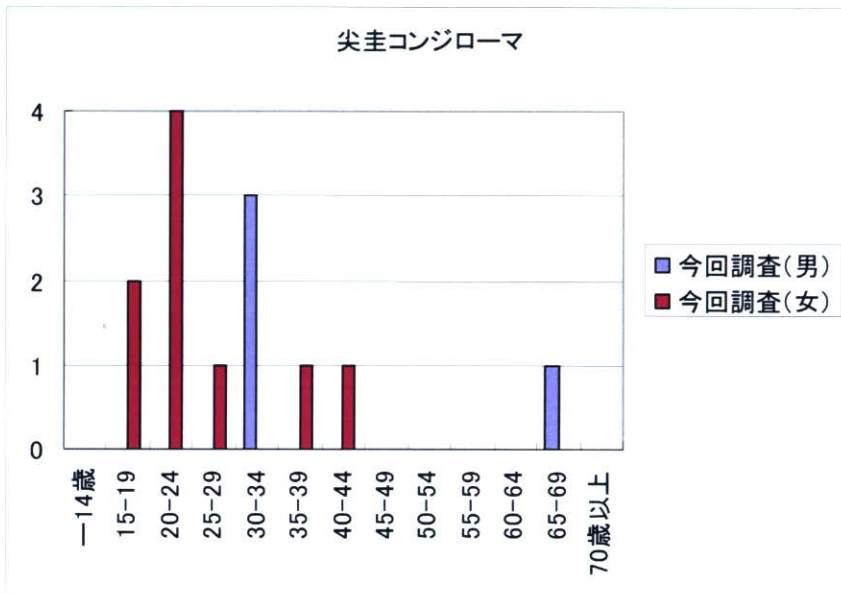


図 39 性器クラミジア感染症(発症者)茨城

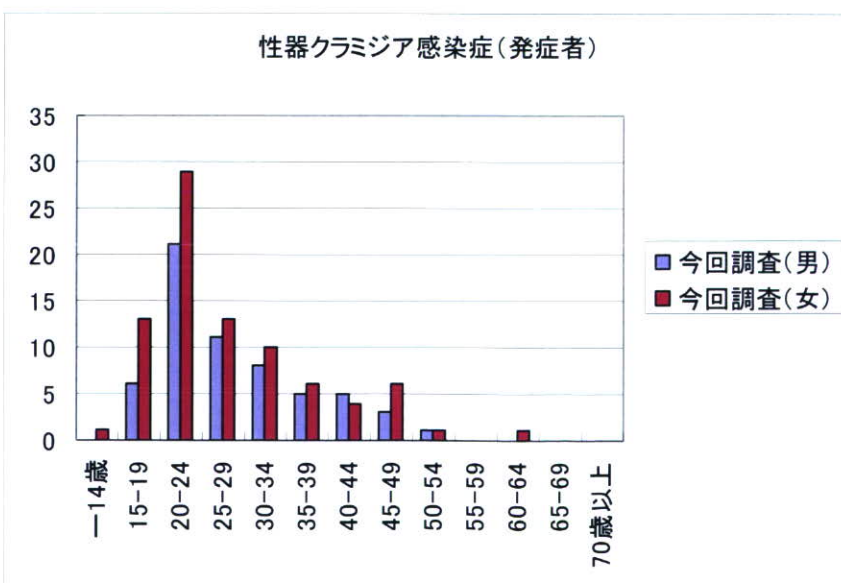


図 40 性器クラミジア感染症(発症者)岩手

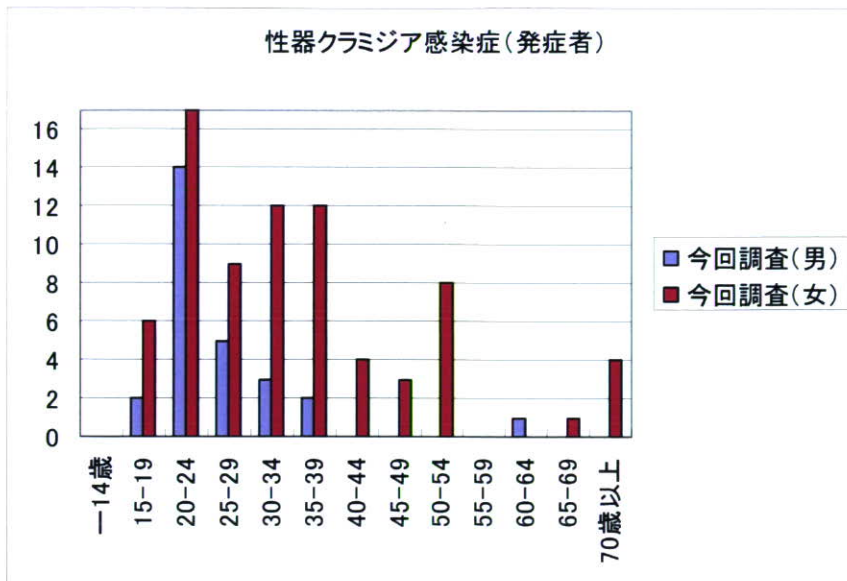


図 41 性器クラミジア感染症(発症者)千葉

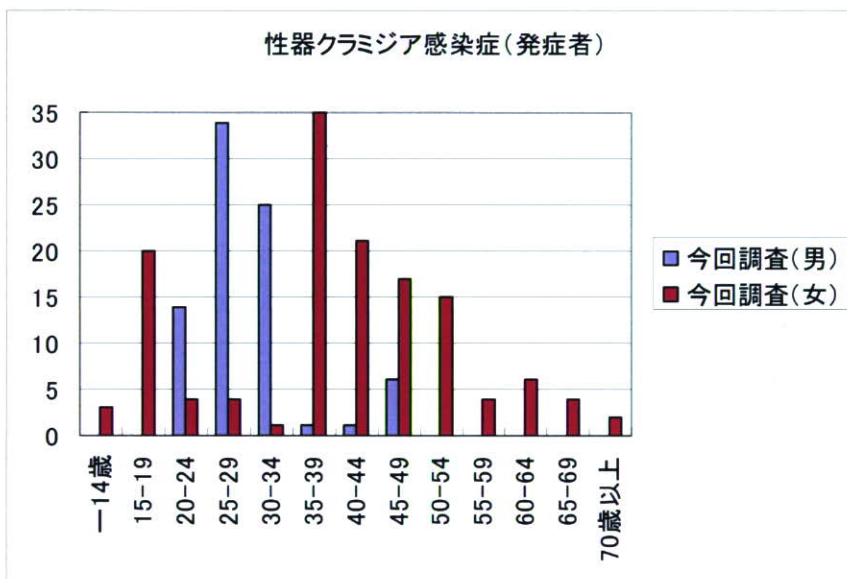


図 42 性器クラミジア感染症(発症者)徳島

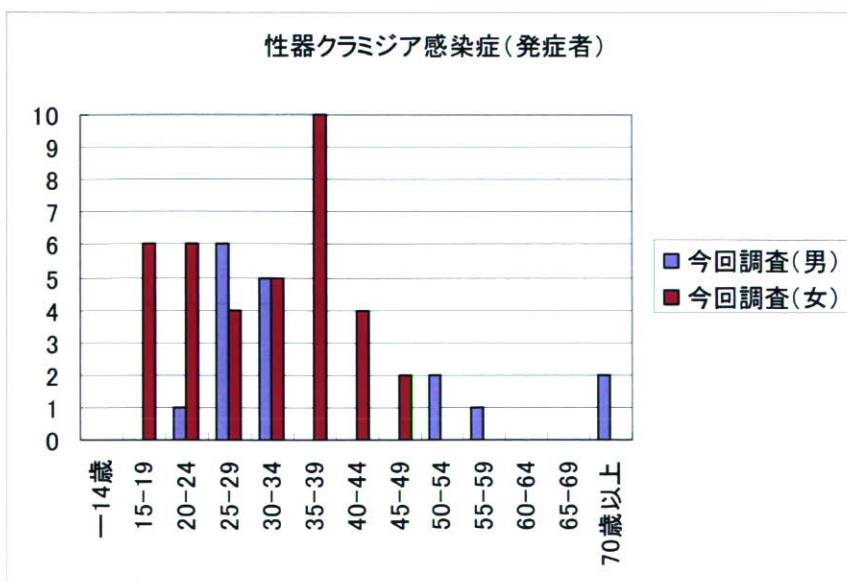


図 43 性器クラミジア感染症(妊婦健診)茨城

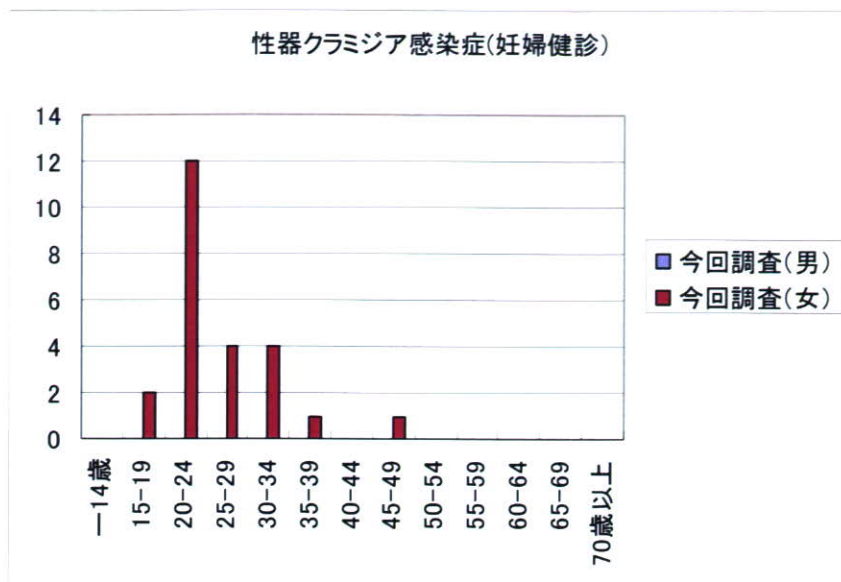


図 44 性器クラミジア感染症(妊婦健診)岩手

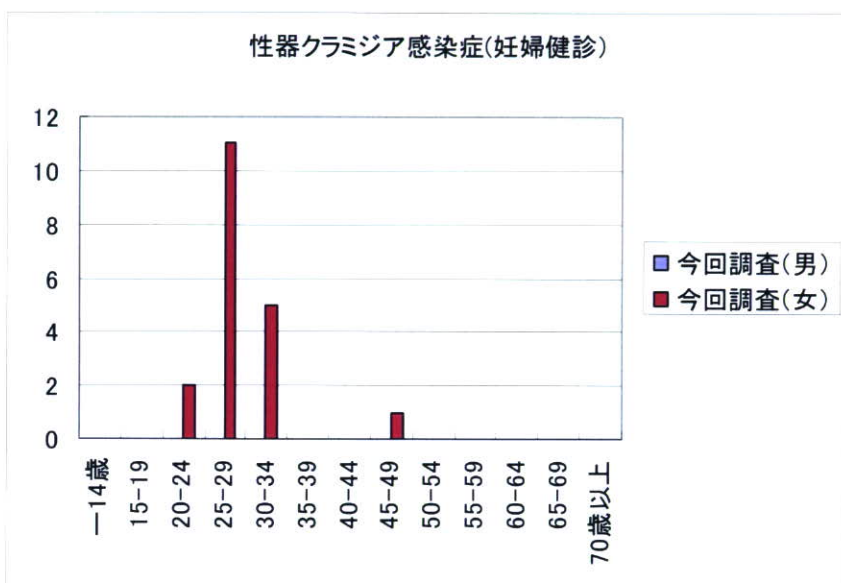


図 45 性器クラミジア感染症(妊婦健診)千葉

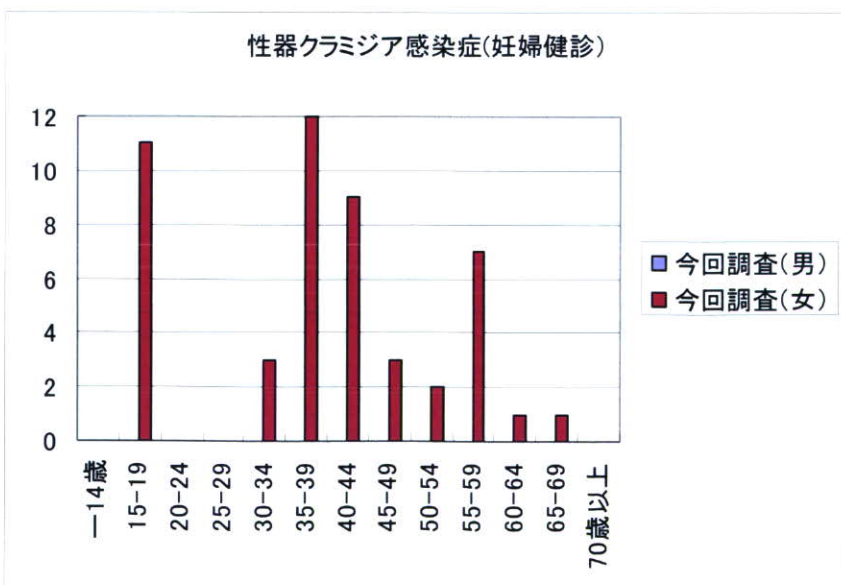


図 46 性器クラミジア感染症(妊婦健診) 徳島

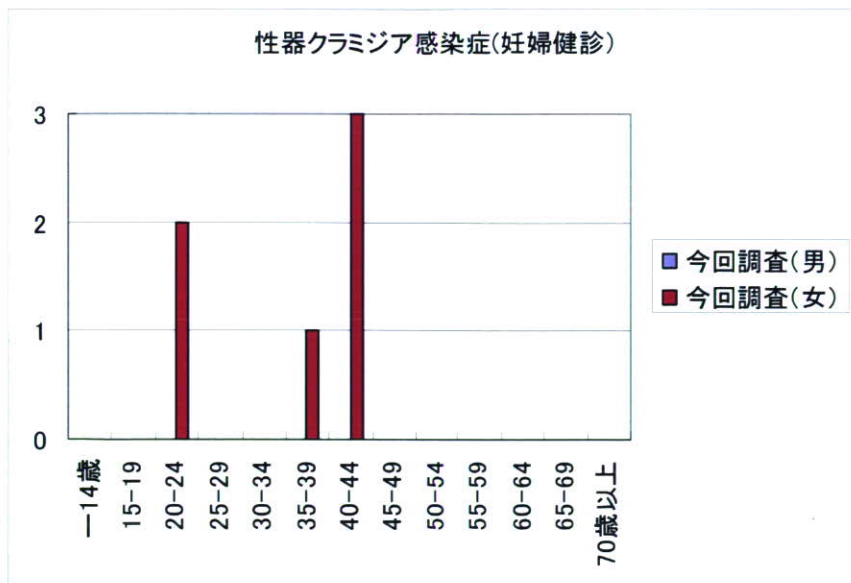


図 47 咽頭クラミジア感染症 千葉

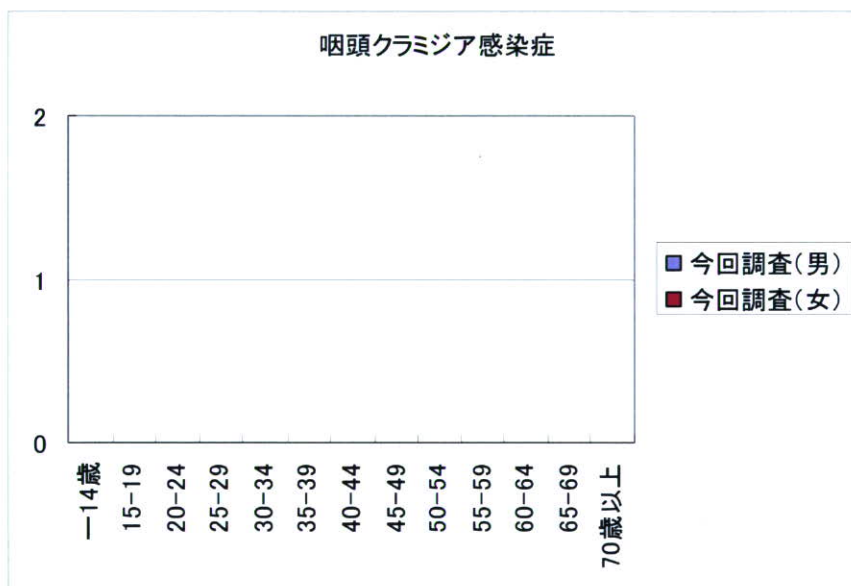
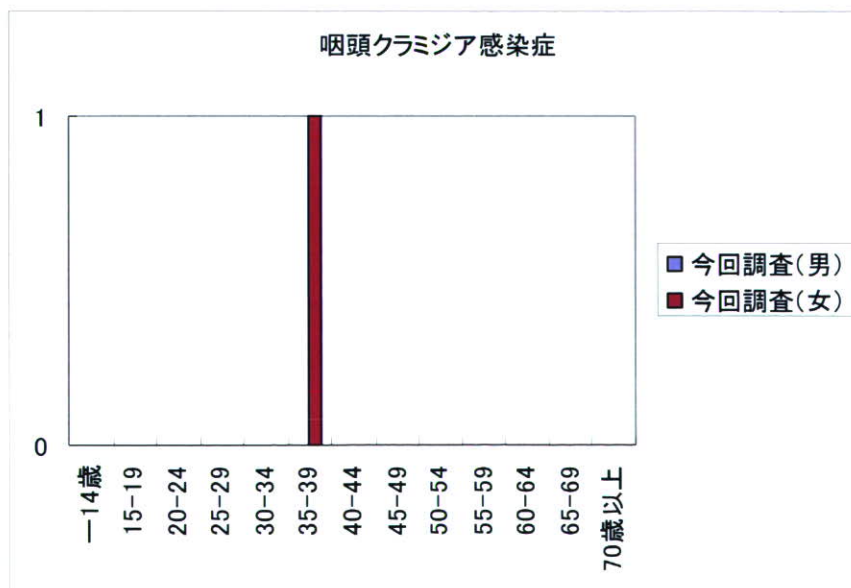


図 48 咽頭クラミジア感染症 徳島



2. 若年者の性感染症を早期に発見し、

治療に結びつけるための試行的研究

平成 19 年度厚生労働科学研究補助金(新興・再興感染症研究事業)
性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究
(主任研究者：小野寺昭一)

若年者を対象とした性器クラミジア感染症の自己検査の推進と
早期発見・治療のための体制づくり

分担研究者：小野寺昭一（東京慈恵会医科大学感染制御部）

研究協力者：白井千香（神戸市兵庫区保健福祉部） 野々山未希子（筑波大学大学院）

中瀬克己（岡山市保健所） 渡部享宏（Campus AIDS Interface）

研究要旨

性感染症に関する特定感染症予防指針に示されている若年層を対象とした性感染症予防対策について、昨年度に引き続き、若者向けイベントを活用し郵送による自己検査(Chlamydia trachomatis PCR 法)を行った。検査勧奨は検査コーディネーターの養成によりピアエデュケーションとして行い、学園祭や野外イベントで関東および関西地区で実施した。検査キット配布総数 1850 件のうち、検体回収 529 件(29%)、アンケート回収 394 件(21%)であった。無症状の若年者における検査陽性者は男性6.5%、女性4.2%であった。若年者の性行動についてアンケートから、最近 1 年間のセックスの相手は男女とも半数が 1 人、特に女性でコンドームの使用目的は避妊が多く、挿入やフェラチオで使わない場合が 60%以上に見られた。受診行動については、医療従事者には性についての相談を希望し検査や治療の方法や治療費、具体的な予防方法などを知りたがっていた。検査コーディネーター活動は自らの知識や関心を向上させ、若年者どうしが性感染症予防について話し合う機会になった。検査コーディネーター活動を普及するため、養成マニュアルとして「虎の巻」を作成した。若年者を医療につなげるためには、検査から受診まで医療機関との円滑な連携を図る必要がある。

A. 研究目的

2006 年末に改訂された性感染症に関する特定感染症予防指針に示された若年層を対象とした予防対策の推進に向けて、昨年度に引き続き、性感染症スクリーニングの自己検査の普及と若年者にとって検査や治療に向かうための促進因子(動機付け)や阻害因子(抵抗感)は何か、を考察する。また、若年者向け各種イベントを通じて、検査コーディネーターを養成し、若年者のエンパワーメントにつながるピアエデュケーションを試行する。代表的な性感染症として性器クラミジア感染症の早期発見と適切な治療の推進を目的とする。

B. 対象・方法

① イベント時の自己スクリーニング検査の導入と性行動調査

対象を 25 歳までとし、クラミジア自己検査郵送用キット（男性：初尿、女性：膣スミア）と性行動や感染予防、受診等に関するアンケート用紙を、関東地区と関西地区のイベント時に配布した。匿名で検体を郵送し、結果の照会は性感染症検査結果照会サービスとして研究班専用のホームページ ([http:// www.kensa.org/](http://www.kensa.org/))へ、携帯電話やインターネットでアクセスし、ID 番号の入力によって確認することとした。

検体検査は PCR 法により、三菱化学メディエンスで行った。アンケートは検体提出時に同封して回収した。結果通知後の意識については携帯ウェブ上でのアンケートを試行した。

② 検査コーディネーターの養成について

NGO である CAI (Campus AIDS Interface) の呼びかけ (インターネット上の公募およびメーリングリストでの情報提供) により、イベント時の検査勧奨に協力する高校生、大学生、社会人 (30 歳未満) を募った。面接およびオリエンテーションと研修を行った後に、1 イベント 3~5 人で検査コーディネーターとして検査キットの配布を中心に、啓発活動を行った。調査を行ったイベントは平成 19 年 4~12 月に実施され、その内訳は関東地区 13 (街頭イベント 10、学園祭 3)、神戸 2 (街頭イベント 1、学園祭 1)、岡山 1 (学園祭) 計 16 か所であった。

<倫理的配慮>

- ・検査協力者へ紙面による説明を行い、本人自署の同意書を提出してもらった。
- ・検査結果の還元を検者協力者本人 (希望者) へ可能とした。
- ・研究結果は特定の個人を同定できないよう報告することとした。

C. 結果

① イベント時の自己スクリーニング検査について、クラミジア自己検査キットの配布数と検体回収率、アンケート回収率、PCR 陽性率、性行動アンケート調査の集計から、検査協力者の性・年齢区分等は以下の通りである (別添のスライド図参照)。

検査キット配布数は、1850 キット (男 804 女 1046) で、検体回収数 (回収率) は 529 (29%) で、性別では、男 168 (21%)、女 361 (35%) であった。アンケート回収数 (回収率) は 394

(21%) で、性別では男 121 (15%)、女 268 (26%) その他 5 であった。

Chlamydia trachomatis PCR 陽性 (陽性率) は、男 11 (6.5%)、女 15 (4.2%) であった。

アンケート協力者の年齢について、男 18~19 歳 13 人、20~25 歳 78 人、26 歳以上 27 人、年齢記載なし 3 人、女 14~19 歳 29 人、20~25 歳 194 人、26 歳以上 39 人、年齢記載なし 6 人であった。初交年齢は女性の方がやや早い傾向だが、中央値は男女とも 18 歳であった。

性感染症の既往について、女性の約 30% で気になる症状があり、検査を受けたことがあると答えており、16% に治療歴があった。男性では、気になる症状や検査ありは約 5% で、2% 治療歴があった。

コンドーム使用に関する性行動は、コンドームの使用目的が「避妊」は、女性 82%、男性 37%、「感染予防」は、女性 47%、男性 21% で、挿入行為でコンドームを使わないことがあると答えた女性は 62%、男性は 23%、フェラチオで使わないと答えた女性は 93%、男性は 39% であった。

また、アルコールの介在について、自分または相手がアルコールを飲んでセックスすると答えた女性が 64%、男性が 28% であった。

性感染症の検査や治療に望むことは、「自宅で検査を受けたい」「気軽に受診できる医療機関を知りたい」「検査や治療の費用」「具体的な治療方法」「具体的な予防方法」が多く、挙げられた。

性に関して相談したい相手は、男女とも友だち、彼・彼女の順に多く、次に女性は意思や看護師、男性は携帯やインターネットという順にであった。

予防行動として「今後、あなたがしたいと思うこと」は、次の項目について半数以上が選択していた。「この検査で性感染症がわかったら、受診する」のが女性 93%、男性 84%、「必ずコンドームを使う」のは女性 64%、男性 63%、「性感染症か

も?という症状があったら早めに受診する」のは女性 61%、男性 57%であった。

自由記載については、別途添付するが、「病院にはなかなかいけないので、イベント時の検査キット配布はありがたい」というのが多く、性感染症の検査を気軽に無料で周りの目を気にせず受けられることに利便性を感じていた。

ウェブ上でのアンケートは今年度末に試行作成したが、数件のアクセスのみであり、分析の対象とはならなかった。

② 検査コーディネーターの養成については、今年度の活動を参考に、今後の検査キット配布についてマニュアル化して普及することとした。検査コーディネーターとして活動した若年者と研究協力者である CAI (Campus AIDS Interface) が企画して、「検査コーディネーターになるあなたへ 虎の巻」を作成した。全国の自治体、保健所等へ配布し、次年度からの性感染症 (Chlamydia trachomatis PCR 法) 自己検査の普及について役立てることとする。

D. 考察

Chlamydia trachomatis PCR 法による陽性率について、男性は6~7%と昨年度と相違がなかったが、女性は昨年度8.6%、今年度4.2%と低下しているのは、検査協力者の年齢層が異なっていたためではないかと思う。昨年度は10代の女性が20%程度、自己検査に参加しており、今年度は10%に留まっていた。また、最近1年間のセックスの相手の数が男女とも1人が約半数であったことは、リスクの高い対象が検査を希望したというより、より意識の高い慎重な性行動をしている若年者が自己検査にも興味を持ったということかもしれない。ただし、検査陽性者と陰性者についての性行動のリスクの比較は、陽性者の実数が少ないため、数年間をまとめた分析を必要とする。また、検査陽性者のその後の受診行動の追跡ができていな

いので、結果通知の機会を利用して、結果を知つてからの意識や行動がどうであったかを今年度試行したウェブ上でのアンケートに加えてみたい。いずれも来年度の課題として取り組む予定である。

検査コーディネーター養成については、学生の、必ずしもエイズや性感染症に関連しない既存の自主活動を活性化することや、イベントに自発的にスタッフとして参加する充実感が、次の行動を促すことであろう。検査コーディネーター活動は先輩から後輩へ、また、友人と性の問題を話題にするきっかけとなるなど、若年者のピアエデュケーションがお互いのエンパワメントとなり、性感染症予防への意識を高め、感染予防行動が広まることを期待したい。

E. 結論

若年者にとって、性感染症の自己検査の推進は、医療機関に受診しにくい対象を捉えるには良い方法である。検査コーディネーターの存在はその推進に役立つと考えられる。さらに早期の診断、治療につなげるための体制として、受診者側の若年者のニーズと医療側の受診体制の整備を考慮した、検査と相談可能な環境整備が必要である。若年者 (特に10代) の性感染症の拡大防止には、若者に信頼される医療の受け皿を増やすことが重要である。

F. 発表

原著論文、総説、学会発表なし。

1) 冊子発行

小野寺昭一, CAI, 他:検査コーディネーターになるあなたに 虎の巻. 平成20年3月

2) 寄稿論文

白井千香:性感染症対策の現状と課題~地域での取り組み. 公衆衛生 Vol.72 No.6(掲載予定) 特集「若者を性感染症から守る」

若年者を対象とした性器クラミジア 感染症の自己検査の推進と 早期発見、治療のための体制づくり

19年度 研究経過報告
H20 03 08 班会議

研究協力者

白井 千香 (神戸市兵庫区保健福祉部)
中瀬 克己 (岡山市保健所)
渡部 享宏 (Campus AIDS Interface)
野々山未希子 (筑波大学大学院)

小野寺班(若年者)

対象と方法

①クラミジア自己検査(郵送)/性行動アンケート

15～25歳の無症状者を検査対象とする

chlamydia trachomatis PCR検出の自己検査キットを使用

キット配布 : イベント・学園祭・学校常設・保健所常設

配布地区 : 関東(東京、神奈川等)、神戸、岡山

②検査コーディネーター養成

大学生や社会人等でボランティア活動に関心のある若者を募集

- ・ ユースによるピア活動として検査キット配布と検査勧奨
- ・ 検査コーディネーターマニュアル「虎の巻」作成

小野寺班(若年者)

若年者を対象とした性器クラミジア感染症
の自己検査の推進と早期発見、治療のた
めの体制づくり

結果1

①クラミジア自己検査(郵送)／アンケート

・イベントおよび学園祭

1850キット配布(男性804、女性1046)

検体回収率 男性21%、女性35%

PCR陽性率 男性6.5%、女性4.2%

(H18 PCR陽性率 男性 5.8%、女性8.6%)

・学校にキット常設 ~H18年度 神戸地区私立大学
(検査希望者10~30件/年、学生数の0.05%)
スクリーニングとして非効率のためH19年度から中止

・保健所にキット常設 H19年度~池袋保健所で試行

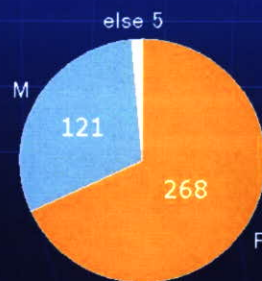
小野寺翔(若年者G)

結果2

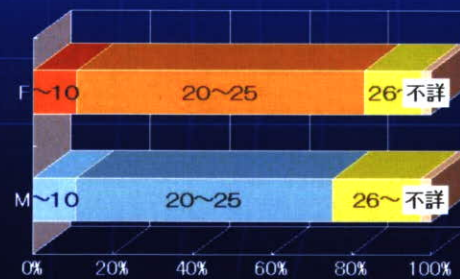
・性行動アンケート

1850キット配布 男性804、女性1046

アンケート回収率 男性15%、女性26%

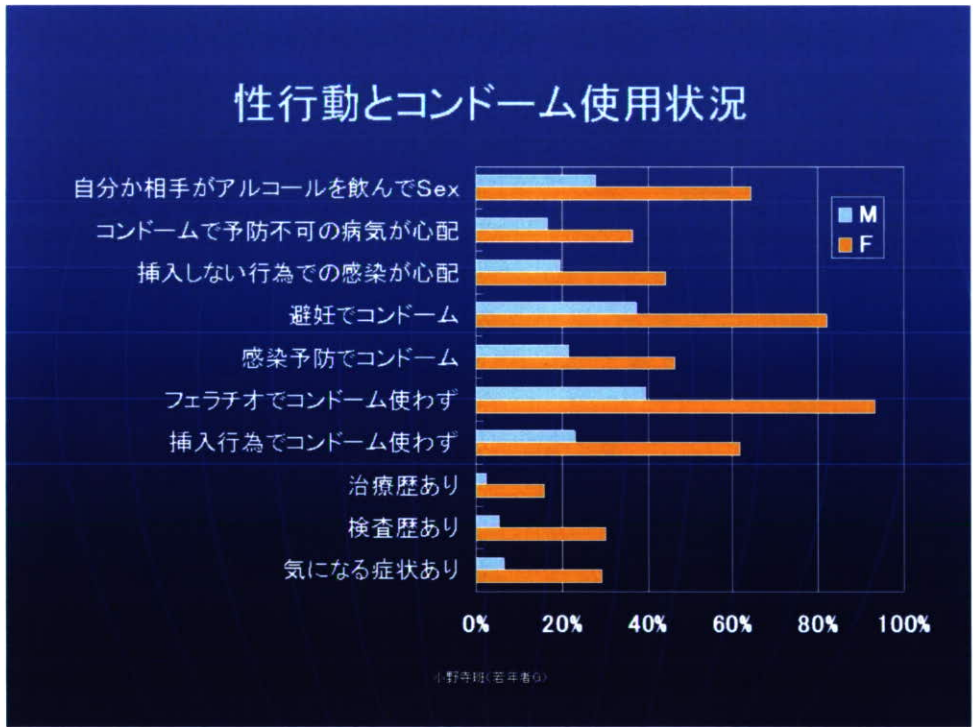
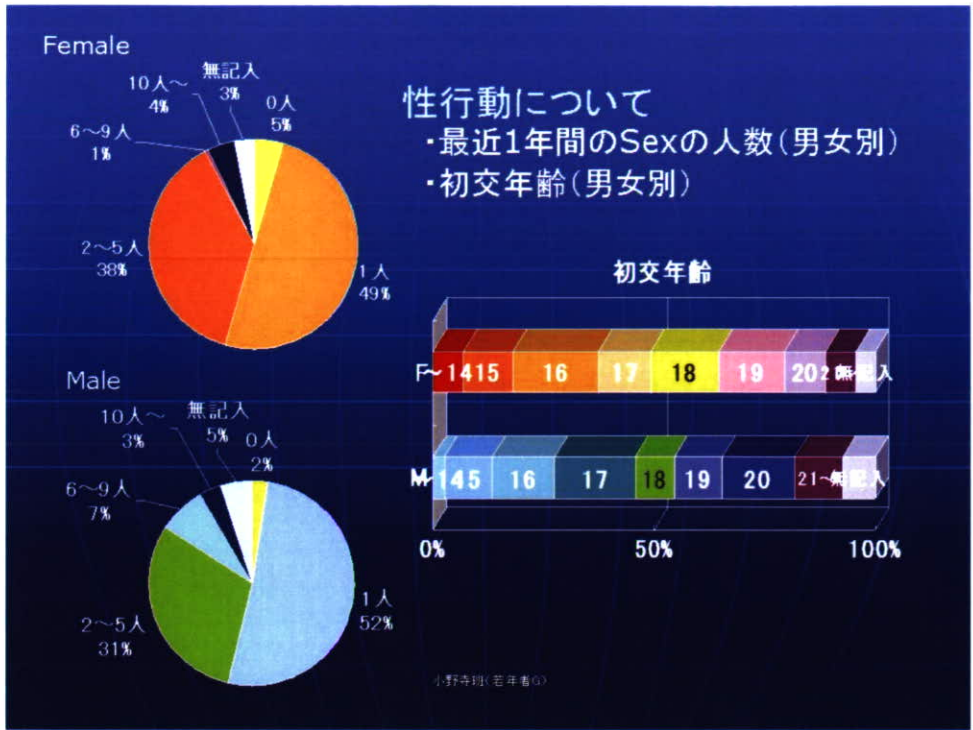


回答者年齢分布 (性別その他除く)



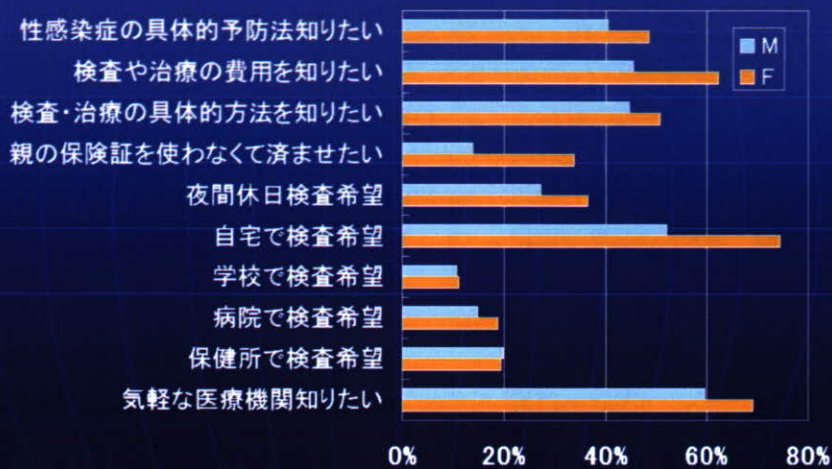
小野寺翔(若年者G)

若年者を対象とした性器クラミジア感染症
の自己検査の推進と早期発見、治療のため
の体制づくり



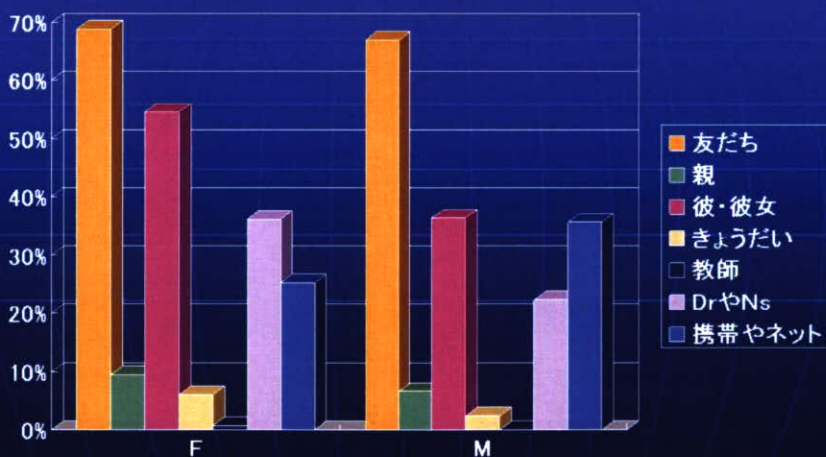
若年者を対象とした性器クラミジア感染症
の自己検査の推進と早期発見、治療のた
めの体制づくり

性感染症の検査や治療に望むこと



小野寺理(若年者ら)

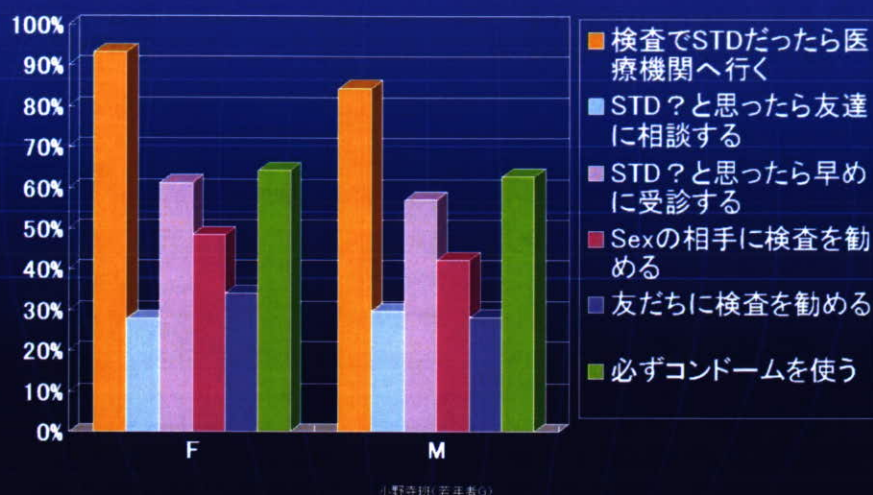
性に関して相談したい相手



小野寺理(若年者ら)

若年者を対象とした性器クラミジア感染症
の自己検査の推進と早期発見、治療のた
めの体制づくり

予防行動への意識 「今後、あなたがしたいと思うこと」



結果3

②検査コーディネーター養成

イベントへの参加数 3~6人/回

既存のピア活動の活性化

大学内の自主活動を推進

先輩から新人への継承

「虎の巻」作成

全国の保健所にも情報提供(今年度送付)

…来年度から活用し、各地区で自己検査体制を進めるツールとして役立てる。

小野寺 翔 (若年者)

若年者を対象とした性器クラミジア感染症の自己検査の推進と早期発見、治療のための体制づくり

考察

- 昨年度と比較し、女性でPCR陽性率が低率だったのは、10代が少なかったことが考えられる。
- ただし、性感染症予防のためのコンドーム使用は少なく、「使わないことがある」と答えた女性が60%を超えていた。
- 今後の早期受診と感染予防目的のコンドーム使用が意識付けられた。
- 検査コーディネーター活動は、若者自らの知識、関心の向上になり、性感染症やエイズに関して友人と話す機会を広げた。
- 検査や受診の促進には、結果通知後のフォロー体制の整備やその信頼性にかかっている。

小野寿明(若年者Q)

若年者へのサポート体制 構築へのポイント

- 自己検査を普及する。
- 医療機関の情報を提供する。
(受診時の検査方法・治療、費用、アクセス)
- 早期受診の動機付けを行う。
- パートナー(Sexの相手)への受診を促す。
- コンドーム使用の目的を感染予防行動として、具体的な予防方法をわかりやすく伝える。

検査コーディネーターによる
ピアエデュケーションが鍵

小野寿明(若年者Q)

若年者を対象とした性器クラミジア感染症
の自己検査の推進と早期発見、治療のた
めの体制づくり

性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究（小野寺班）

若年者を対象とした性器クラミジア感染症の自己検査の推進と早期発見・治療のための体制づくり

（若者を対象とした性感染症の実態調査と蔓延防止のための新たなシステムの構築）

自由記載（H19年度 自己検査キット配布時のアンケートから）

Male

- ・ とてもわかりやすく、気軽にできた（19男）
- ・ 来年はHIVの検査もやってほしい（20男）
- ・ 無料で検査してくれるので喜んでしたが、4千円とかなら検査しなかったと思う。HIV検査も無料ということなのでまた行きたいと思う（20男）
- ・ 都市部では土日や夜間の性感染症検査は実施されているが、地方ではまだ実施されておらず平日が大半。平日では行きたくてもいけない人がいるので地方でも土日、夜間の検査をしてほしい（20男）
- ・ 血液検査以外での検査を！（21男）
- ・ 昨夜アップルジュースを飲んでしまったが（尿検査に影響しないか）、大丈夫か（22男）
- ・ オフィスビル街でもキャンペーンをやってほしい（24男）
- ・ 今度、病院に行こうと思っていたので助かった。ありがとうございます（25男）
- ・ 無料で検査できるのはとても助かる。病院などはなかなか行けないので、休日にイベント会場などで勧めてくれて幸い。今まで（検査を）やろうと思ってたけどなかなかできなかったから（25男）
- ・ スタッフのみなさん、ありがとうございます（25男）
- ・ もっとこういう無料検査があると良いと思う（25男）
- ・ 性感染症の具体的な症状がわからない（32男）

Female

- ・ フェラだけしかしてなくてもどれくらいの確率で病気になるのか知りたい（14女）
- ・ この検査はとってもやりやすくてよかった。無料匿名ってトコも本当にうれしい。私は経験人数が多いのでとても心配です。ありがとうございます（17女）
- ・ コンドームを使用しない場合でもうつる感染症は知らなかったのが驚いた。親に言うのは気まずいし、保険証を出さなくて良かったら助かる（18女）
- ・ クラミジアが意外にも流行していて驚いた。気をつけたい（18女）
- ・ やりちんと何回か性交したので、すごく心配、怖い。だぶん性病だと思う（19女）
- ・ 産婦人科に行くこと＝遊んでるから来た、とかマイナスなイメージが日本ではあるから、産婦人科に行く時には、「意識が高くてより良い」というイメージ作りをするべき。親も子どもが「産婦人科に行く」というと「行かなきゃならないような事したの？」って非難めいた目で見ると（19女）
- ・ 友だちがクラミジアになったそう。身近なこととして考えにくいけど、身近なことだと思っておかなくちゃならないと思う（19女）
- ・ 症状があるわけでもないけど、なんとなく不安。不妊症になったら…とか。検査してみたいと思っていただけ検査方法も料金も知らなかったのが今まで行かなかった。今回のイベントでこのセットをいただいた。イベントなど誰でも気軽に検査できていいと思う。一緒にいただいた冊子も大変勉強になった。今後、周りの友達にも検査することを勧めていきたい（19女）
- ・ 正しく採取したつもりだけどちゃんとできていか、心配だ。無料でできる今回のような検査があればこれからはしてみたい（19女）
- ・ 自分は性感染症なんか無関係と思っていたが、実際この検査をすることになってもしかしたら、と思い始めた。早く結果が知りたい（19女）

- ・ 70 病院に行って検査を受けようと思ったら、その病院の医者が女性か男性かが気になるし、やはり男性だったら行くのを少しためらう (20 女)
- ・ 今回のような検査なら気軽にできていい。普段は病院に行かなきゃできないというのが、少し勇気がある。やっぱり若い人には病院などは行きたくないというイメージがある (20 女)
- ・ 間違っただけ情報があまりにも多く流れているのが問題だと思う。「医療的に正しいこと」というまとまった情報を広くテレビなどで公開し、頭での理解を進めてみてはどうか、しかし私もフェラチオでのコンドームの使用は、(しなければ)危険と思っててもできないと思う (20 女)
- ・ 挿入しなくてもうつる性感染症があることを知らなかった。もっと男性誌の Sex 特集で女の子に対するヘルスケア (性病やコンドームの必要性) を取り扱ってほしい。一方的な願望や欲求の間違った情報しか載っておらず、男性誌を読むと悲しくなる。エイズの検査も今回のようにできるとうれしい (21 女)
- ・ 今まで特に気にしなかった性感染症がすごく身近で他人事でないことが分かった。これを機に、友だちに検査を勧めたり、自分自身も問題意識をもつようにしたい。ありがとうございました (21 女)
- ・ 自宅で検査できるのがよかった (21 女)
- ・ 高校生などの若い子達は、症状があっても病院にいかないと思う。親にバレるのも嫌だと思うし、もっと手軽にできる検査 (今回のような検査で 3~5 千円程度) があったら良い。若い年代に性感染症が増えているとのことでもっとたくさんの人に病気の恐ろしさをわかってもらえたらいい。綿棒のプラスチックのところにラインを引いて「ここまで入れる」みたいなことを書いてもらったらわかりやすい。膣口がどのあたりなのか、わかると思うので (21 女)
- ・ 病院で検査を受けるのは抵抗があるが、自宅でできるのはとても良い。高校生くらいからこういう問題について知っていればよかった (21 女)
- ・ イベントでやっていて気軽に検査できて良かった (21 女)
- ・ もっと「性」についてオープンになるといい。恥ずかしいことではなく、みんなが正しく楽しめるのがいい。友達にもお勧め。ありがとうございました (22 女)
- ・ CAI のイベントで話を聞いたが、急に自分が性感染症だったらどうしよう、とすごくすごく、不安になった。日本人の若者の性にかんする意識は本当に低い。でも、直接訴えられるとすごく現実味があって、確実に私の「性に対する意識」は高まった。感謝しています (22 女)
- ・ もっと気軽に検査キットが手に入るとうれしい (22 女)
- ・ コンドームをしていてうつる性感染症の対策は? ヘルペスにかかったことがあるのでどのように注意すればよいか (23 女)
- ・ 今、痛みなどはないが、おりものの量の増加がかなり前から感じていた。初めての Sex が遅かったので、Sex をしたから (おりものが) 変わったのかなと勝手に納得している。もし病気でない時もおりものにおいなど病院に相談したい (23 女)
- ・ 誰にも会わずに検査ができると、とってもしっかりやすいなと思った (23 女)
- ・ 検査を「25 歳以下の日本人」にしているのに納得がいかない。私の好きな人は他国籍の留学生で、友人は年上の彼氏と付き合っている。性感染症の予防、治療なら関心があって受けたい人全てが受けられるようにしたいと思う (23 女)
- ・ 今回、イベントでキットを頂いたがとてもよい機会だった。保健所に行こうと思っても日時が限られているので、Sex の相手に検査を勧めるかはパートナーによっては伝えにくい人もいる。コンドームを使うかどうかも同様 (パートナーによる)。男性に方が性病や AIDS に対して意識が低いように思う。妊娠も同様。男性にも意識を高めてほしい (23 女)
- ・ 治療費が高い (24 女)
- ・ 若い人が恥ずかしがらずにオープンにこの検査を勧めるキャンペーンをしていて、とても受けやすかった。恥ずかしいというイメージをこわすキャンペーンをもっとして欲しい。大事なことから (24 女)

- ・ とても気になっていたので、検査が受けられてとてもうれしい。だんなにも勧めてみたいと思っている (24 女)
- ・ こんな簡単な検査でわかるなんて驚きだし、有難い。なかなか病院へは行きづらい。検査を受けることで性病について身近に考える (向き合う) ことができた。ありがとうございます (25 女)
- ・ 性感染症の名前は知っていてもなんとなくわかっていなかったなので、今回の検査は良い機会になった (25 女)
- ・ フェラの時はいつもゴムを使わないが、必要なんだなあとと思った (25 女)
- ・ 今回の検査のように、実際、検査をする人と受ける人の顔が合わずに済むような検査方法を増やしてほしい。また、病院で検査を受けるには高い費用がかかるので受けにくい (26 女)
- ・ ずっと付き合ってきた彼氏とはコンドームなしで Sex してきた。昔はコンドームなしでも中出ししなければ OK? と思っていたけど、ちゃんとコンドームを使いたい (27 女)
- ・ 住所、氏名を記入する必要がなく検査ができてとても助かる (27 女)
- ・ 今年子宮ガン検診を受け、異常はなかった (27 女)
- ・ このような機会を与えて下さり、ありがとうございます。より皆様が興味を持つことが大切だと思う (30 女)
- ・ 性に関する事、というどうしても後ろめたいイメージがあるので相談や早期発見をしやすい様に気軽さ、明るさ (?) があればよいと思う。例えば CM で、さわやかで若い人に人気がある人、まじめなイメージがある人に出演してもらおうとか。Sex するのは若い人だから、性病については若い人も興味を持つんじゃないかなあ。私は幸い、複数の人との Sex は経験なく、今付き合っている人が初めての人でもある。彼とも Sex の話をするが真面目に (恥ずかしがらずに) 話せるのはすごい! (カッコイイ) といわれたことがある。大事なことなので、もっと皆も話したり、考えたりして欲しいな。人一人作り出す行為な訳だからもっと慎重になってもいいと思う (32 女)

陽性者でアンケート回答者 17 人 (男 8 人、女 9 人) の概要 (陽性者 26 人の 65%)

属性と性行動

男 19~28 歳 初交 15~20 歳 1 年間の Sex 人数 1~20 人
 女 17~30 歳 初交 12~20 歳 1 年間の Sex 人数 1~80 人

性行動のリスク

- ・ フェラチオでコンドームを使わない (100%)
- ・ 挿入でコンドームを使わない時がある (94%) 男 88% 女 100%
- ・ 性感染症予防でコンドームを使う (24%) 男 25% 女 22%
- ・ 避妊目的でコンドームを使う (71%) 男 75% 女 67%
- ・ 今、気になる症状がある (29%) 男 50% 女 22%

今後の予防意識

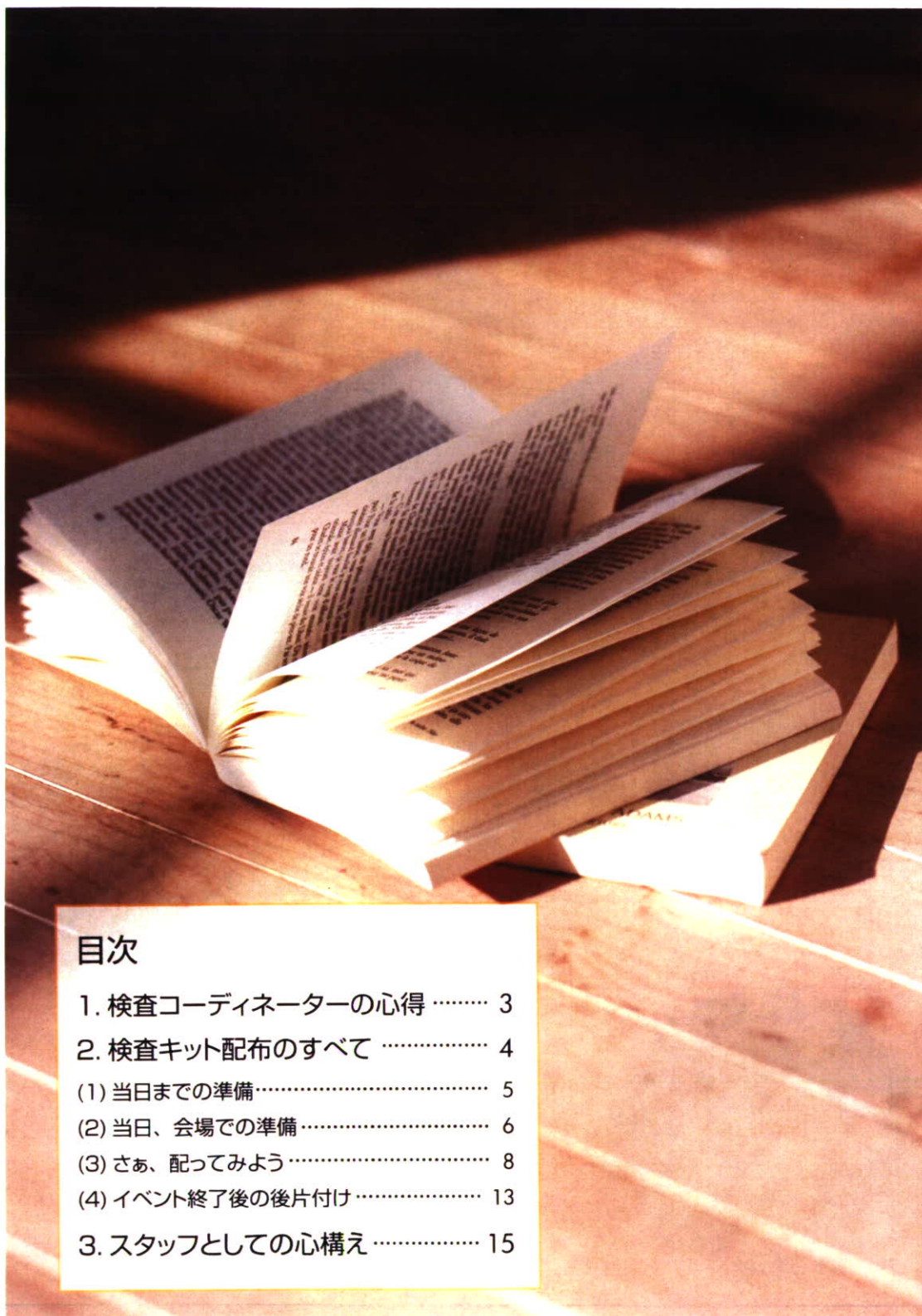
- ・ 検査で性感染症だったら医療機関へ行く (88%) 男 100% 女 78%
- ・ 性感染症? と思ったら友達に相談する (29%) 男 13% 女 44%
- ・ 性感染症? と思ったら早めに受診する (53%) 男 38% 女 67%
- ・ Sex の相手に検査を勧める (41%) 男 38% 女 44%
- ・ 友だちに検査を勧める (24%) 男 0% 女 44%
- ・ 必ずコンドームを使う (53%) 男 50% 女 56%



検査コーディネーターになるあなたに

虎の巻





目次

1. 検査コーディネーターの心得 ……	3
2. 検査キット配布のすべて ……	4
(1) 当日までの準備 ……	5
(2) 当日、会場での準備 ……	6
(3) さあ、配ってみよう ……	8
(4) イベント終了後の後片付け ……	13
3. スタッフとしての心構え ……	15